

5-6. 開発政治学とガバナンス論

*経済成長や貧困削減にとって政治はどういう意味をもつのか。

政治：国民の安全・安心を実現すること（安定的治安秩序、安定的所得を生む経済、公平な流通、安定的教育の実施、保健・衛生など）→貧困を生み出す構造全体の変革が必要

レフトウィッチ：すべての開発は、資源の配分の問題であり、経営的でも行政的でもなく政治的である。

<開発政治学の進展>

独立後途上国→近代化・民主化→失敗→1950 後半－60 代：軍主導の権威主義体制

経済運営の2つの方法：①市場の自由な競争による、②産業政策（政府の直接統制による経済運営）→経済運営に政府の役割をできるだけ小さく考えるのか、大きく考えるのかの違い

→開発と経済成長は不可避免的に政治問題であり、政治課題、政治過程（David Goldworthy）

【ガバナンス論の台頭】

2000 年以降開発政治学へ注目←政府が機能しない限り開発進展の基盤は形成されない

ガバナンスの定義：「政策形成と実行によって、いかに政府が経済と社会を成功裏に采配できる(舵を取る)か」（ジョン・ピエール）

【経済成長と民主主義】

東アジア諸国の急速な経済成長から、ガバナンスへの注目。

- ・ 経済活動に関わる各種の利害関係者間の関係性を検討する必要大=政府と市場の関係がいかにあるかが重要（両者がもたれあわずに良好な関係を保っているときに経済の仕組み自体に一定の質が確保される傾向=両者の緊張感ある関係性⁸）
- ・ 東アジアの開発独裁体制=政治勢力が経済的にも利益を独占、市場を歪め、市場の公益性を確保する管理機能を果たせなかった→ガバナンスの問題
- ・ 経済成長では国家の政策が重視されていたが、問題はガバナンス

冷戦後：民主主義を望ましい政治体制とする総意の形成（経済成長と民主主義の関係再考察）

民主主義：代表者を選出するだけでなく、国民がその意思を政策決定に繁栄できるための参加の機会があること→国民の意思を反映しない政権は選挙などによって交代させられる可能性を確保すること⁹

民主主義≠経済成長の副産物

民主主義の定着には一定の経済発展尾達成が望ましい。（政治参加と国民への情報開示（アカウンタビリティ）がないと国民から正当（Legitimacy）とみなされない。

市民社会の役割も重要

⁸ Evans, Peter (1996) "Government action, social capital and development: reviewing the evidence of synergy", *World Development*, Vol24, No.6, pp.1119-1132.

⁹ Dahl Robert A. (1971) *Polyarchy: Participation and Opposition*, New Haven: Yale University Press.